保健室ででくわして

廣瀬　るな

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
保健室ででくわして

【Ｎコード】
Ｎ８７４４Ｄ

【作者名】
廣瀬　るな

【あらすじ】
ハッピーエロギャグ・頭ん中・スプリングラブコメディ♪羽ばたけ！妄想の翼！まんま、保健室での迷惑なバッティングのお話。Ｒ指定有り。ご確認の上、ご入場。要注意です！！不快にならないでね。

１　俺、いっちゃうよ？（前書き）

この作品の始まりは春エロス　２００８　への参加でした。ですがあまりにお馬鹿だったモノですから退場！の運びとなりました。とほほ。目標はぎりぎりＲ１５の阿呆えろです。（↑作者すでに馬鹿）ストーリーも何も有りません。目指すは低空飛行！上手く飛べなかったときは、ゴメンナサイ。

1　俺、いっちゃうよ？

全く、平松は面倒。俺は少し愚痴りながら、彼女の切りそろえた髪から覗く白いうなじに目をやった。
彼女は風紀委員長。厳しい事この上ない。タバコ、お酒、ピアス、その他いっさい駄目駄目の女。
でも、可愛い。
ため息。
なんでこんな女の事、好きになったんだよ。
仮につき合ってもキスもさせてくんないぜ、きっと。

俺達は保健室で調べ物をしていた。そんな俺は保健委員長。
“どこまでが不純異性行為？”
その厳しい定義が彼女の委員会で求められているらしい。
キスは？
お触りは？
公共の場所って言う定義は？
自宅での愛のあるセックスは？
ほとんどが彼女を困らせようとした連中の質問だ。
でも彼女は真面目で、その上ふてぶてしいから、丁寧に調べる気になったらしい。でもって白羽の矢がたったのがこの俺。
ま、もともと同じクラスでそこそこ話しも合って仲良かった事だし、さすがに高校も3年になるとエロ話にも強くなるという物で。
二人で、保健医の横溝さんの許可をもらい、かなりきわどい話題の載っている
“蔵書”
を読みあさり、やっとの事レポートらしき物をまとめた。
＊　とりあえず、校内で本番（もっと婉曲的に言う言い方を考えな

いといけないという課題もあるが）および類似した行為（こっちは婉曲すぎだって？）はＮＧ
＊　更衣以外の目的で肌を露出してはいけない（しなきゃオッケーなのかって、そこ微妙）
＊　自己責任の上行う。（自己責任って何だよってとこ、とりあえず避妊な。彼女はばりばりこれの方法を書き写していた）
＊　他人が入ってくる可能性のあるとこは、公共性のある場所とする。（便所も然りって？）
＊　校内は全て公共の場とする。

などなど。正直、本当に調べる必要有ったんかって感じだけど、我慢。彼女と一緒にいれたしね。
　それにしても彼女、

＊　同性の場合にはこの限りではない。

なんて書いてるし。惚れた弱みか。そのずれた感覚すらも可愛いって思えるから不思議。
「疲っかれた〜。」
平松が大きく伸び、同時に綺麗な胸の形が露になる。４月に入ってからのぽかぽか陽気、ジャケットを脱いだ彼女は真っ白いブラウス。
　俺は目のやり場に困った。

　だってさ、俺、彼女とあんな事、いたしたいんだもん！
　今日だってさ、二人っきりの保健室って思っただけで緊張しちゃってさ。放課後前にもうど疲れちゃって、一本いっとく？ってくらいテンパッチャって。
　いいや、その前に彼女に恋する少年Ｈ、何だけどさ。
　そんな俺のシタゴコロをよそに、彼女は窓を閉めようと立ち上がりそのそばに行き、俺に振り返えるとにこって笑う。

天使みたいだ。
ああ、俺ってお馬鹿さん。彼女の背中に羽根が見えるぜ。
俺は決心した。今、言おう。
だから彼女の隣に立ち、何気ないそぶりで話しかけた。
「あのさ、風紀委員長、風紀委員長は好きな人、いる？」
すると彼女は真っ赤になって、うつむいた。
　そんなのありかよ！！
俺はパニックを起こしそうになった。誰だよそいつ。平松に好きな男がいるなんて、俺は聞いた事無いぞ！！彼女は俺をちらって見て、
「じゃあ、保健委員長は？」
なんていきなり切り返してきた。
答えられないじゃん！俺はしどろもどろになった。
「ん？」
彼女が可愛い目をくるんと大きく見開いて俺を覗き込から。
もう、やけくそ！
考える事なんか出来なくて、そのまま彼女を抱きしめた。
平松が、
“はっ”
て、息を呑むけど、もう駄目。
「俺、あんたが好き！！」
でも・　・・・彼女、抵抗しなくてさ。俺の腕の中、キラキラした瞳で見上げてた。

嘘！！

俺はそのまま彼女にキスしていた。
嬉し過ぎ！！何これって。彼女が好きなの、俺？マジ、嬉しっ。
しかもどさくさで抱き合って、ファーストキスしちゃったよ。
唇だけが合うヤツじゃないぜ。マジ、こう、べろんちょってヤツ。

気持ちよくって、膝が折れて・・・・・・!!俺、このままでずっといたい。夢中で彼女をむちゃむちゃした。
その時、ドアの所に人の気配。
誰か来た!!
俺達は慌ててベッドの下に潜り込んだ。

保健室ででくわして　　つづく

2　侵入者アリ！

本当は隠れるべきじゃなかったんだ。
わかってるけどさ、俺たち、真っ赤な顔で呼吸あげてはぁはぁ言ってたし、どうしようもなくてさ。
本番行くとこだった？なんて言われたら、最悪じゃん？
二人、手を握りながら、勿論無言で小さくなっていた。
見えたのは緑のバレーシューズ。つまり1年下の2年生。
その男の方が
「どうする？」
って、微妙ににやけた声で言った。
俺はえっ？て思ったさ。それは平松も一緒みたいだった。
その声に心当たりが有ったから。
花園巌（はなぞのいわお）は超有名人。
どこからでも目立つ身長１８０ｃｍ強におっとりとした甘いマスク。血筋はお公家様と噂される品行方正の見本の様な下級生。いつだって学年代表だ。
その彼が俺たちの方へ近づいて来て・・・・！
みしっ。
よりによって隠れているベッドの上に座りやがった。

なに、体調不良？今、放課後だよ、少年。早く帰りやがれ！
俺の心の声が届くはずも無く。
「いつまでそうしているつもり？もう少しで６時だから時間はあまりないよ。」
と、なんだかもったいぶった声が聞こえた。当然俺たちに言った訳じゃない。もう一人の方に向かってだ。
挙げ句に
「ラッチ、掛けなくていいの？」

と。
なんだか嫌な予感がした。
すんなりした、というより心持ちむっちりした二本の足が扉に向かい・・・・
かちゃり！！
ラッチが掛かった。

これって！？

俺は思わず顔を引きつらせた。

“どこまでが不純異性行為？”
って、さっきまで調べてたよな？ここ、公共の場所じゃん？いやいや、まさかな。常識的にやらないよな、そんな事。

「カーテンは？した方がいいんじゃない？それとも見られた方がいい？」
その一言でますます状況は怪しい方向へ。
俺は生唾を必死になって、飲み込まない様に、いや、溜まったものはしょうがない、出来るっだけ音がしない様に飲み込んだ。
彼女の足が窓の方へ向かい、なぜか
「それは止めとけば？」
と彼。
何を止めんの？って考えてると、一言やんわりと。
「閉めたら暑くなるよ。」
どうやら彼女は窓も閉めようとしたらしい。ってか、男の口調は
「窓、閉めんな。」
って聞こえた。
・・・・マジかよっ！！
これが本当なら、ヤバくない？？

とりあえずあんた、品行方正の手本の様な男じゃなかったのかよ？？？？

俺は降って湧いた疑問ってヤツにショウゲキを覚えた。

こいつ、もしかして、アレか！？

カーテンが大きくはためく音がした。

花園の必要以上に長い足が俺たちの目の前で９０度くらいの角度で開かれていた。

笑いを含んだ声が、

「これから1時間で2回か。英、頑張れよ。」

と言った。

英！？まさか！！

俺たちは顔を見合わせた。

予想はしていたさ。こいつの彼女は有名人だし。

でも、張本人が今、本当にこうしてここにいるなんて。さすがに別人だろうなって正直思ったし。

花園、モテそうだし。そう言うお友達って有りでしょうって。

何しろ英詳子（はなぶさしょうこ）は花園以上に有名人。

彼と同じ2年生で、父親は最高学府の教授。彼女自身は常に全国模試の上位に位置し（つまり満点の同点一位って事よ）学園一の秀才の名を思いのままにしていた。

その上ＰＴＡおよび先生方の信任も厚い、名誉奨学生。

高校生ディベート大会筆頭候補で、生徒会評議委員。何かある度学園代表。

正にＳクラス。誰にも負けない権力者。

でも見かけはそうじゃない。小柄でちょい、いやかなりロリ入った童顔に、少し大きめの眼鏡。一部マニアに大人気の、むっちり少女。そこだけサイズがＦクラス。

表のあだ名が“強気の英”で、影のあだ名が“版権者”。アニメ

のパロディみたいだって言う事らしい。もち、エロアニメ。どっちにしろ普通じゃない。
でも推定処女。
その、英？？？？
彼氏１８２ｃｍ　彼女　１４８　ｃｍ　。サイズだけでも犯罪だ！
ベッドがみしり、と鳴り、不必要に長い足がさらに長く前に動く。
「２回の約束だよ。破ったらまたお仕置き。」
その意味を考えようとするのだけれど、答えは一つ以上考える事が出来ず・・・・。
「俺が上でもいいけど、どうする？お前の制服ぐちゃぐちゃになっても知らないぞ。」
ってその一言で、やっぱ、アレかって、納得してしまった。
ベッドの上にあるカーテンのしきりがシャァーって派手な音を立てて閉まった。
やっぱ、アレだ！
保健室ででくわして　　つづく

2　侵入者アリ！（後書き）

更新が遅れていてご免なさい！！低空飛行すれすれで、かなりヤバい状況なんです・・・とほほ。
春エロスに出品予定だった「彼女。」の方は投稿終わっていますので、えろけりゃ何でも！という強者は、
良かったら読んでやってください。作者ページかあらすじページから行く事が出来ます。
とにかく頑張って書きます！！

3　サファリパーク（前書き）

R15・・・・・・。

3　サファリパーク

彼の足の間に彼女が入り込む。それから低い女の声が
「ムカつく。」
と言った。・・・・到底優等生の声じゃなかった。それから二人はごそごそと何かをやっていて。まぁ、多分、キスだな。猫がミルク舐めるような音がしてるからね。
それが、いきなり！少女がしゃがみ込んだ。
隠れてたのがばれたのか！俺たちはびくって飛び上がりそうになった。
でもそうじゃなく。
彼女は膝をついただけ。膝上１センチって感じの曖昧で真面目そうなスカート丈が目の下１０センチで揺れていて。
ほっとして気が緩んで、そのスカートの長さにやっぱ英なのかって納得する余裕もできちゃったりして。
それから
“上になったらぐちゃぐちゃっ”
って具体的な所考えているうちに、俺たちのちょうど頭の上あたりで季節外れの蝉の音。
それからの音は意味不明。
パシィって、何かを叩く音は分った。・・・・・何やってんだ？
「大丈夫か、英。」
楽しそうな声。髪の毛をすくような、さらさらって音。
えっえええええっ！！
余裕なんかかましてらんないじゃん！！俺、正直焦った。これって、ショートカットでそういう事だよね！！ってか、正規ルートがどんなのか分かんないけどさ。
隣りの彼女はきょとんとしていて。何しろ、ベッドのスプリングの厚さが有るからね。現物は何にも見えていないし。正直俺だって、

それ、想像上の産物だけどさ。
でもご免、俺、何してるかばっちり想像できちゃう。
俺の頭の中をアフリカ象がのし歩いていた。
でも平松に今目の前の彼女が何しているかばれていなくって、正直、セーフ！！
そうこうしているうちに英がなんだか呻いていて、目の前の足がきゅって内側に締まった気がした。それから、微妙に腰が前後に動き出し、彼女の上半身もそれと同じ様に動いている。制服がかさかさかさかさなりっぱなしで、俺の耳、ダンボ状態。
急にベッドの上がきしみ、吐き出す様な気味悪い音が響き
「助けてやろうか？」
と、とっても優しい声の後、なぜか彼女の動きが大きくなった、気がする。
えっ、これって。俺は平松を握りしめる手にびっしり汗をかきながら考えていた。・・・・ああ、そういうことねって、おぼろげな知識で理解した。
俺たちが踏み込んだのは、ただの校内えろえろ現場ってんじゃなく、限りなくアダルトに近いアニマルワールド。しかも野放し。

「彼女の方が気分悪いのかなぁ。」
俺の耳元で平松が囁いた。
俺はちょっとだけ泣き出したい気分で、
「しっ！」
って、危うく中指出しそうになり、慌てて人差し指を口に当てて、そうだよって頷いた。

つづかないかも・・・・・。

3　サファリパーク（後書き）

もう、限界。書けない・・・・。Ｒ１５侮り難し。
アクセス数見るたびに気が滅入る・・・・。伸びないで～。
こんなの中身のないエロギャグだよ！
廣瀬、もっと良いモノ書いてるよ。
ラプソディ、完結したよ。
Ｌｅｆｔ　Ａｌｏｎｅ　はもうすぐ渾身！のらぶえっちモードだよ。
激甘いよ。
Ｐａｉｎ　は　ＢＬ　だと思って読むと二度美味しいよ。
彼女。は、激寒だけど、みっしり充実しているよ。
・・・・次あたり、ムーンライトに飛んでいるかも。

４　その時、歴史は動いた？（前書き）

Ｒ１５・・・・現在、ノークレーム！！・・・・セーフ！？
小説を読もう！企画サイトからお叱り受けましたら速攻撤収の予定です。いきなり無くなってたら、飛んだ！と思ってください。

4　その時、歴史は動いた？

「大丈夫？」
密かな響き。何となくだけど彼が舌なめずりするのを感じる。
目の前で彼女の腰がくねった。
「さすが、優等生。」
からかいの声が聞こえ、女がため息をついた。
でもなぜか彼女の方が夢中だって事が分った。
乾いた声が
「可愛いなぁ。」
「校医が来るまで後少しだから頑張れよ。」
とパイプフレームの空洞を通り響いてくる。

それから、女の細い指が俺たちの目の前を横切った。
マニキュアもしていない短い爪。その指先がスカートをたくし上げ、後ろを目一杯持ち上げる。
思わず目を見開いちった、俺。
俺たちの目の前に
“彼女”
は見えないけど、ドアを開けたらもろ、後ろの方から何もかも丸見え、そんな感じ。
彼女のFカップと噂される胸が目の前のベッドの端に押し付けられ、ムニュって歪んだ。

これがさぁ、エロアニメだったらさ、俺がちょいって手を出して、彼女、フォーハンズ（４つの手）ってなるんだろうけど、俺、そう言うキャラじゃないからね、言っとくけど。正直妄想大好き少年だけど、実生活は健全っすから。期待すんなよ！！

両手はスカートの中。左右に揺れるスカートから、彼女が何をしているかって事は想像がつく。
それはゆっくりと目の前に現れ、ぴちゃって床に落ちた。ちなみに俺、裸眼２．０だから。
ワインレッドの総レース。
彼女の微妙に長いスカートに納得。
俺の目は釘付け。でも待てよ。平松確か視力悪かったよなぁ・・・・。今度コンタクトにするか眼鏡にするか迷っていなかったっけ？
って事はだよ
『あれ、何？』
って聞いてくる事って有りじゃない？俺はフルスピードで言い訳考えた。どうして俺が考えるのか。不思議だけど考えた。
ピン！！
『アレはハンカチだ。ほら、スカートの中から出て来たろ？て手を洗った後拭いたまではいいものの、ポケットに入っていて気持ち悪いから取り出したんだよ、きっと。』
よし、完璧！さぁ、聞いてくれ、平松。心の準備はできた。Ｇｏａｈｅａｄ　じゃ！

ベッドの上の男が喉を鳴らしたのが分った。
「頑張るじゃん。」
その余裕の声の後、またしてもベッドがきしみ女が呻く。
すると、どうだろう。彼女のむっちりとした右の太ももから何か光るものが伝い降りて来て。
こ、こ、これは！！どうしよう、言い訳第二弾だ！！考えるぞ、考えるぞ、よし。・・・・これは・・・・・・
汗だ！！
ほら、今日は春の割にはぁ暑いしぃ～♪汗かいちゃったぁ、って、・・・・くうっ！
英詳子（この際フルネーム）のほにゃほにゃ言っている声（本当

は違う）が聞こえ、ソレはもうすぐ床まで届く。
「ほらまた。」
彼の笑い声。
「だから英は駄目なんだ。自分だけ。ん？こら。」
その優しい口調とは裏腹に、声は嬲りに嬲っていて。現状をよ～く観察していらっしゃる。ってか、まじ、Ｓ。ああ、これがＳって言うヤツなのか。その気が有ったとしても、俺にはまねできねぇよ！こん畜生！あんた、凄いよ！下級生！！
「！！」
それはのどの奥から聞こえる、正に悲鳴。
目の前の腰がぶるぶる震えた。
それから吐くようなうめき声。
そのくせ彼女の上半身はさっきよりもっとぶるんぶるん揺れ始め、

平松がぎゅっと目を閉じた。
お前にはこんなただれた青春を見せたくない・・・・。男の決意が行動を発起させた。さあ、その時。
２００８年、４月。その時、俺が動いた。
思わず松平、じゃなくて平松の手を放し、男は彼女の両耳をしっかり押さえ込んだのである。
らぁらぁらぁらぁ～♪　↑　テーマソングね→の。
・・・・・なんだか俺、壊れて来た。（涙）

この次は、ムーンライトででくわして、ってかしら・・・・・。

４　その時、歴史は動いた？（後書き）

この連載、廣瀬にとっちゃ羞恥プレイ・・・・（↑もしかしてこれＲ１５　ｕｐ！？）

恥ずかしい・・・・誰か書くの代わって欲しい・・・・。その趣味無いっす。

5　SOS　誰でもいいから助けてください！

彼女は俺の腕の中で小さく震えていた。・・・・本当、ご免。俺があんな事しちゃったばっかりに、こういうドツボにハマっちゃって。

平松がかまととぶっているわけじゃねぇぜ。念のため言っとく。こいつらが野生の王国なだけだからな。

腕の中が微かに身じろぐから、俺は力を緩めた。

「大丈夫？」

小声で

「うん。」

彼女は青ざめながらうなずいた。それからクチパクで

「デモ、英サン、モット大変ソウダッタヨ。」

・　・・・・・・はい？

「コノママ苦シンデイルンジャ可哀相。横溝サン、呼ンダ方ガ良イヨ。」

・　・・・・・・空耳？いや、違うよね。

「由加里ニメールシテ先生ニ来テモラオウ。」

って彼女、携帯出してるし～！！

ダメダメ、それはいけません！！

俺は慌てたさ！！とにかくこいつらがさっさと済ませていなくなる、それ以外解決策なんて無いんだって。メール打って横溝さん、来てみい！！今、この現場に！！ヤバいだろ、それ！！

彼女、叫ぶぜ！

ってか、やっぱ平松、状況分かってないのね。

溝口さん来たら、ここ激流の真ん中になるよ。
教官総出の大騒ぎになるよ。もち、俺たちここにから出られなくなる。・・・・プリズンブレイク？　あ～保健室からの脱出ね～、っておい、そんな事言ってる場合じゃ無いって。
挙げ句に俺ら見つかってみ。しゃれならんだろ？俺たちやってんの、覗きだぜ、覗き。ピーピング。風紀委員長と保健委員長が揃って、の・ぞ・き。絶対、笑い者。校内新聞号外でちゃうよ！？
『保健室、ベッドの下の風紀取り締まり。４月は強化月刊です。あなたも、見られてる！！Ｗａｔｃｈ　ｏｕｔ　！！　』
んでもってなんて弁解するのよ。
『床下の掃除してたら、こいつら始めちゃって。』
ってか？無理！！　それ絶対、無理！
その上これが他のヤツにばれたらどうなると思う。
『写メ撮った～？』
『ボイス機能使ったの～？』
『聞かせて～』
『でもさ、ライブで送ってくれたら良かったのに。メモリーくれる？ＰＣ起こしてあげるからさ～。』
『で、ご一緒だった平松君とはどうなのよ、あっちのほう♪』
『聞きてぇ、聞きてぇ。』
『えろえろえろえろえろ～～～～♪』
うわぁぁぁぁ～～～～！！
勘弁してくれ～～～！！俺は、チェリーなんだぁ！！
でもって俺の事見ている彼女の瞳はマジ真剣で。
「本当ニ吐キソウダッタヨ。アレ見テ可哀相ダッテ思ワナイノ？コノママジャ駄目ジャン。助ケテアゲナキャ。苦シンデルンダカラサァ。誰カ呼バナキャ。ソレトモ何、知ランプリスル気？」
したいです。

「マサカ放ッテオクノ？保健委員長、最低。」

最低・最低・最低・最低・・・・。

最低なのは、こいつらだよ！！

俺は今日何度目かの嘘をつく。

「俺、横溝サンニ直デメール打ツネ。」

にこっ。・・・・・。

騙されてくれ・・・・。

って、騙されてくれるし。可愛いけど、ちょい凹むかも、別の意味で。

俺は偽メールを打った。

“重傷の人、いますから。大至急助けてください。”

自分ちのパソコンに。

彼女が納得って、頷いた。

つづく

5　ＳＯＳ　誰でもいいから助けてください！（後書き）

ＳＯＳ　誰でもいいから、作者、助けてやってください。
ところでこれ、ギャグのつもりで書いてんですけど、笑ってもらえていますでしょうか・・・・・？

6　古生代　ようこそ！（前書き）

小説家になろう　企画関係者さまへ　重ね重ね申し上げます。R15　ヤバそうな時にはご警告をお願いします。速攻退散します。

6　古生代　ようこそ！

ほっとしたのもつかの間。

目の前の彼女がいきなり動きを止めた。

「えぐっ！」

それにつられて平松も体硬くして。

「大丈夫？」

って言わんばかりに体乗り出して・・・・！！

止めて～～～！！触っちゃ駄目～～～～！！

助けちゃ駄目～～～～！！

平松の事、がしって抱きしめ壁際まで駿足下がった。彼女の耳元、

「花園ツイテルカラ、花園ツイテルカラ、花園ツイテルカラ、花園ツイテルカラ。」

頭と頭くっつけ、骨振動状態で念仏みたいに繰り返した。

「ソウ思ウ？」

不安でいっぱいのお人好し彼女。

「彼氏ツイテンダカラ大丈夫。」

それ聞いて少し頷き、ちょっと緩んだ顔をした。・・・・しかしまぁ、平松ってよくこんな騙されやすくって今まで生きて来れたなぁ。

英が肩で息をする気配を感じながら、男のくすくす笑いを耳にした。

「気持ち悪っ。」

不愉快そうな女の声。

「飲むからだよ。」

飲んだの？

「そんな、吐いちゃったら、汚しちゃうし。」
一口ゲロかな？飲もうとおもえば、飲めるよね。確かに気持ち悪いけど。
「だからって、飲んだの？お人好しだなぁ。」
優等生だもん♪
「そりゃ、あんたは・・・・！もう、いいよ。」
いいよね、そりゃ、花園君が飲むんじゃないから。
「うがいしてくれば？」
そうそう、それがいいよ。イソジン使っていいから。ついでに早く退散してくれる？
ムカつくから。
先週もらった旬で美味い生のホタルイカを、そのまんま忘れて冷蔵庫に1週間も放置して、見た目塩辛なめくじ状態にしやがったうちの馬鹿親並みに、いいかげんにせいや！！だよ。
しかもソレ、臭ぇし！！

ぽんっ、と男が上靴を脱ぎ、ベッドがみしってきしんだ。
最悪のパターンだ。唸ってしまいそうな俺。
とその時、頭の上から埃が落ちて来て、
「っ・・・・・！！」
平松が鼻を少しすするような動作をし、ほんのり口を開け・・・・！！

お願いだ、こんな時にくしゃみなんかしないでくれっ！！
俺は必死で彼女の口に手をあてがっていた。
「んっ！！」
彼女は一瞬暴れようとした。
ばれる！！やべっ！！

校内放送で6時を告げる鐘が鳴り、ざわめく校庭。勢い良く流れ出す水道の音に、ベッドの上に誰かが寝転がる物音。ついでに、
「早く来いよ、英。こっちの方が楽だぜ。」
の声。

神様って、いるんだぁ～。

少し涙目の平松が

「アリガトネ、保健委員長。」
って動いたから、ちょっと気持ちが落ち着いた。

それにしてもぱらぱらと落ちてくる埃。空気悪っ。その上匂いこもってるは、原始動物が活動しているは、ここ、太古の世界か？

彼女は心配そうに周りを見回した。もの凄く可愛いんだけど、この状況を全～～～～ったく把握してい無いって事が分かっているから、複雑。
仕方ないから
「大丈夫だよ。」
なんて意味わかんねぇ言葉呟いて彼女の肩にそっと手を置いた。

再びベッドがきしむ。彼女も上に乗ったっつー事ね。
それからごそごそと言う音。
「ねぇ、どこ。エチケットパックが無いよ。」
彼女は甘ったるい様な、それでいて不満そうな声でそう言った。
「お留守だよ。」
男の声がマットレス響かして聞こえた。
何が、お留守なんだ？！
「いつも言ってるよね、英。準備の前に準備が有るって。」

まぁ、そうかも知らんけど、よく分かんねぇ！
「だったら、協力してよ。」
ベッドの中央が大きくきしむ。
「ふふん。」
今度はベッドの頭の方が揺れ、彼が伸びて大の字になったのが分る。
「2回。」
それはさっきも聞いた言葉で。
「お願い、間に合わないかもっ。」
彼女の声は懇願そのもの。わずかに中央部のへこみが元に戻り、足下が揺れる。でもって、いきなり！！
恐竜が肉食むような怪しい物音。
時々怪鳥（正しくは翼竜）が飛んでいるらしく、ぐえっぐえって鳴いてるし。

平松は小さく丸まりながら俺の腕の中に収まって、怯えた様に上を見上げていた。そりゃ、怯えるよね、普通。俺だって怖ぇえよ。

やっぱりここ、古生代　だぜ。

まだ　つづいてる・・・・・。

7　ブラックボックス

プラトニックな俺たちと真逆な二人は再び
「巌、どこ。」
なんてやり取りを始めていた。カチャカチャと金属のぶつかる音。
「見つかんないよぉ。」
あれさがしているのかな～、なんて。
「どこよ、巌。私、汚すのいやだから。」
彼女の声は泣き出しそう。

でもって多分平松は
“可哀相っ！！”
って思ってる。俺を見つめるこのうる眼・・・・。
う～！これで下手に告知しちゃったら、
「保健委員長ってさ、苦しんでる人前にして、そう言う事考える人だったんだ～。ふ～ん。・・・・最っ低！！」
って、嫌われるんだろうなぁ。

「意地悪しないでよぅ。」
「馬鹿。爪立てんなよ。」
まんざらでもなさそうな声が上から響く。
「どこに有るのよ。」
「それが人に何かを頼む態度か。ん？」
出た！どSモード！
ほんの少し間をおいて、ベッドの足下へどっちかが下がる気配。
それから再びカチャカチャカチャ。ズボンの中探してる？ねぇ、上着の中は探した？
「馬鹿。」
何かが投げつけられる音。また少ししてから、ブレザーの袖がベッ

トの端から飛び出し、引き裂くような乾いた音が聞こえた。
「自分の躯だもんな。自分で大事にしないと。」
その、とっても当たり前なんだけど、もの凄く意味深いお言葉に感服。
「口、大きく開けて、そうそう。その方が楽だから。」
いきなり！？
って、まさか。
・　・・・凄げぇ。
そう思いながら、やっぱこの状況平松には絶対分かって欲しくないぁ～なんて正直思った。
いや、別に俺だって確信無いけどさ、見てる訳じゃないし～。あ、も一度言うけど、見てる訳じゃないし～。
「おっ、なかなか上手いじゃん。」
男は余裕かましっぱなしで。ってか、あれ？しかも秒速？早くね？
って事は、俺が考えている事とは違うって？？

はい、妄想タ～イム。優等生はここでどんな事をしたんでしょ～うか？

1　短剣飲み込むマジックやらかした。　↑　ちゃらららら～♪
　オリーブのなんちゃらら
2　のどの奥に噴霧式スプレーを使った。　↑　ばい菌撲滅。　これでのどの奥もすっきり♪
3　舌でチェリーの小枝を丸めた。　↑　ガキの頃やったよ。えろーとか言いながら。
4　バナナを一本丸呑みした。↑　これもある意味マジックか。
5　救急蘇生法の練習をした。　↑　保健委員でマウストゥマウス練習したぜ、男の人形相手にな。
6　ラマーズ法で出産している。　↑　いや、これは忘れてくれ。

・　・・・打ち明けるけど、下にいる俺、正に混沌。カオスだぜ。

「助けて、苦しいよ。」

なんて。まぁ、サイズが違うからなぁ・・・・って!!ここまで話し聞いてりゃお前ら今までだってやりたい放題やってんじゃんぇの!?

何が

『助けて。』

じゃい!!さんざん数こなして来てるよな?お前ら!もう絶対!!

ここに来て

『そんな事無いよ、今日が初めて♪うふっ。』

なんて、有り得んじゃろ。

・・・・なんと無く腹が立って来た。

下からどついたろか!

そのとき、平松が少し、ほんの少しすり寄った。彼女の顔はさ、俺のこのマグマの様にドロドロな心の内とは正反対に困った様にうつむいていて。

あっ、可愛いっ、てそう思う訳よ。

上の奴らは勝手にやってろ。羨ましいけどそれがどうした。

だって、平松、可愛いもん!!

てめぇらみたいな盛りのついた獣どもにプラトニックが分かるかい!!

俺は彼女の不安をなだめる様にそっと抱きしめたやったさ。どうだ、見ろ!俺って紳士だろ?確かにさっきまでは

“やりて〜!!”

だったけどさ、ってか、正直今だってそうだけどさ、物事には段取りってモンが有るのよ。段取りってモンが!

そんな神聖な空気を打ち破ったのは
「落ち着いた？」
の男の声。
・・・・、何が、何が落ち着いたの？ねぇねぇ、落ち着く事なんてあるの？
ってか、やっぱ出来たの？ねぇ、本当に出来たの？以外にあっさりだったじゃん？？サイズ違うんじゃねぇの？？１８０　と１５０だぜ！？途中に
『痛い！』
とか、無いの？

それとも、もう終わったの？カップ麺より早っ！

ってか、これってやっぱ、平松が正しい訳？？

謎！！

こうなったら！！　つづく

8　地震が起きてもベッドの下はいけません

でもさ、結局俺の方が、多分、正しい訳で。

いきなり、きしむベッド。

天変地異？

地殻変動？

地震かい？ここ。環境劣悪。震度は６強だぜ。何しろ震源地直下！もうすぐ波浪警報、津波ドッパ～～～んってかい？

はい、皆さ～ん、ご覧になってください。地震を予知すると言われているこちら、ナマズ君。ナマズ君は地震が起きた後も元気に暴れておりますよ。

ところでご存知ですか？ナマズは昔から精のつく食べ物として珍重されているんです。多少臭みはありますが、皮を剥ぎまして上手に調理いたしますと、とても美味しく召し上がる事ができるんですよ～。

中継は保健委員長がお贈りしました～♪

「保健室だよ、ここ。人も来ないし、楽にしていいから。」

静かなお声がいきなりかかった。おかげで俺も彼女も声を（俺の場合、ココロの声ってヤツね）抑える。けど、それがまた色っぽいのなんのって。

そう聞こえるだけ？？

俺の腰に平松がギュッてしがみついたけど、彼女は

『英さんが苦しんでいる！！』

って絶対信じてるし。

「巌〜。」

英の声は相変わらず舌ったらず。でも朝礼やなんかで聞く彼女の声はそんなんじゃないから。ああ、女って男次第ねっ。

彼の方は相変わらず冷静。

「英。胸元開けたら。楽になるよ。」

って命令していた。

「擦ったら。気持ちよくなるから。」

そうか、気持ちよくなるのかっ。勉強なります。受験じゃ役立たなそうだけど、でもその知識、絶対役に立てて見せるからな！

それに合わせて震度も上がり。

はい、

“地震は最初縦揺れです。”

そうそう、ぴょんって跳ねる感じね。よく知ってるね。

それから地盤も動く訳だ。

“第二波は横揺れです。”

がたがたがた〜。

最悪の場合、地盤沈下の恐れあり。このままでは陥没も免れません。周辺住民は近くの公共施設または学校に避難してください・・・・できねぇよ！！

上の声も少しだけどテンション上がってて、余裕かましていた彼が

「ううっ。」

って唸って、

「巌も、苦しいの・・・・？」

二人がエロエロな恋人同士の会話しているってことに気がついた。

うわっ！それって別の意味でエロいよねっ！

「お前・・・・」

彼の呟きに俺の耳は地鳴りを聞き取るスコープ状態。んな事平松に

ばれたらめちゃくちゃ恥ずかしいから心持ち腰、引いていたりして。

「巌、駄目、駄目っ！もう無理！」

「ん？」

パン、パン、パン！！

パンはパンでも、食べられないパンは何だ？

アンパンマン！

ブッブー、アンパンマンは食べれますよ～、

毎朝のバス待ちで息子相手に同じ会話する親子、思い出した。ガキもガキだ。んなので毎度、騙されるんじゃねぇ！

なんて事とにかく考えて、俺は必死にやんちゃな男心をなだめる。

注：現在春エロス２００８　で　幻影金魚　好評連載中の　ｔａｋａｏ　様より保健委員長の身体状況について、いかなる状態かご質問いただきました。Ｒ１５　ですからコメントは控えさせて頂きます。悪しからずご容赦のほど。今後ともご贔屓に。

「もう、苦しい！！」

おい！声でかい！！お前ら見つかって俺たちも見つかったらシャレならんだろう！！控えやがれ！

「駄目っ、巌。」

「大丈夫。」

「でも、あっ嫌っ。だめ、本当に私、もう。」

「だから、我慢だって。」

「苦しいってばぁ。」

「もうすぐ楽になるから、待てよ。」

「嫌っ！！苦しい！！死んじゃう！！」

・・・・・絶滅しろ！！

・・・・撲滅？

9　ショウゲキの幕引き

二人が帰ったのはそれからしばらく経ってからのこと。

どうやらぐっすりお休みの英に花園は妙～にかいがいしくお世話をしていて、妙～にその事が生々しかった。

良く有るじゃん？　Ｓ　Ｍでお互い楽しんだ後にＳがＭを労る、みたいなさ。飴と鞭？まあ、これも受け売り妄想だけどよ。

だって濡れたハンカチ拾ってベッドに戻り、

「ほら、仕舞えよ。」

とか言っていたんだから。いや、ソレは正確じゃないな。その後、

「風邪引いちまうか。」

とか呟いて勝手に引き出しからポリの袋取り出しごそついていたんだから、ソレは違う。

・・・・英はどうやって家、帰るんだ？やっぱ、そのまんま、なのか？

あ、ハンカチだから大丈夫か。

その後

「ったく、手間かけさせやがって。」

と嬉しそうな声で床を拭き、

ヤツがしゃがむ度に俺たちはびくって震えたさ。なんだか、こっちがヤバい事している気分だった。

ラッチを外した。

何度も言うけど、覗きじゃねぇぞ！俺達はこいつらと違って

“普通に”
いちゃこいていただけだっ！！

その後、タイミングが良いのか悪いのか、校外会議に行ってたはずの校医の横溝さんが帰って来て、なんと！花園が芝居を始めた。
普通、終わったら即帰するだろうが、即帰！何余裕かましてんだよ！

しかもさっきこいつが床に直接消毒用アルコールをぶちまけていた所為で、この部屋はまるでクリーンルームの様なお香り。場数踏み過ぎだよ、花園君。

カーテンをそっと開く音。
「英なんですけど、急に気分悪くなったみたいで休ませてもらってました。無断ですみません。」
先生あっさり騙されて
「いいよ、そんなの。それより大丈夫？気づいた？」
なんて、またしても俺たちがいるベッドに近づいてくるし。
「落ち着いた？」
それから
「顔色はいいみたい。よし。」
と花園の肩（多分）を叩き
「ま、君が送っていきなさい。くれぐれも送りオオカミにならない様にね。」
ですと。
横溝さ～ん、言っときますけどね、彼女、もう既に食われてますよ～。2回ほど。それで伸びちゃってんですよ～。
廊下越し、
「祥子、また調子悪くなったら来ような。」
って声が聞こえた気がした。

また来る気かい！？この、腐れどえろやろう！！二度とくんな！！

次回　最終話！！

9　ショウゲキの幕引き（後書き）

皆様、良い週末をお過ごしになりましたか？
ここいらでは花散らしの雨が降ってます。

１０　ハッピーエンドにでくわして（前書き）

来た！！ここまで、来た！！

10　ハッピーエンドにでくわして

何度もしつこいようだけどな、俺はこいつらに比べりゃ健全だからな。間違ってもこのままベッドの下で始めよう、なんて、これっぽっちも考えなかったからな。せめて寸止めだけでも、なんて、そんなの、どっかのえろいネット小説だけだぞ！

俺たちがベッドの下から出られたのはも少したってから。
横溝先生がいなくなった隙を見て飛び出し、転がる様に部屋を出た。
しかもベッド近くの床が微妙に濡れていて、思いっきりこけそうになったし。・・・・滑るのは俺だけかい？花園君。

緊張のあまり、俺の喉はからっから。
本日の運勢、最悪なのか。
帰りがけによった学食脇の自販機にはコーンポタージュとかホットココアとかしか残ってなかったし。
冷たいって事で妥協ラインして
“とろとろぷるぷるゲル化炭酸クリームソーダ”
を飲むはめになる。唯一まともな
“振っちゃっていちごシェイク”
は彼女にあげた。

夕暮れの下校ルートを二人無言で歩いた。こういう時、なんて言えば良いか、必死こいて考えたさ。
まだ耳元に残っている二人の声をなんとか押しやって。
「な、あ、風紀委員長。」
「な、なに、保健委員長。」
「あ、あれってさ、やっぱ、２年の花園巌君と英祥子さんだよね。」

「だよね。」
俺たちはちょろっと見つめ合い、二人とも視線をそらした。
しばらくたってから口を開いたのは彼女の方で。
「二人とも、食中毒だったのかなぁ。」

やっぱりかっ！！

「うん。多分、そう。でも大丈夫なんじゃない？最後、落ち着いてたようだから。」
とは言うけどさ。
その上彼女はいきなり、
「思うんだけど、保健室のベッドの上にだけ関して言えば、カーテンを引けばプライベートスペースって認識、ありだよね。」
いや、やめてくれ。だから何だって言うんだ！？
「でも、やっぱ学校は学校だよね。」
その通り。大正解だよ、平松。その路線で行こう。学校は、
「公共の場所だよ。」
あんな所でおいたしちゃいけません！！

それにしても、今晩、多分、俺、眠れない。

そりゃだってもう、結局さ、今日一番、そりゃもう、いっちばん！！大事な事聞けずに駅まで歩いてしまったんだよ。
・・・白亜紀後期からやって来た最後の絶滅恐竜・ハダカノエロザウルスどもの乱入の所為でまだ自分の告白の返事きちんと聞いていないんだよ～！！
正直、そっちの方が気になるの！！
絵に描いた餅より、目の前の平松の方が大事な訳。
でも、今は返事、聞けない・・・・・。

しかも
「花園君、優しかったよね。」
追い打ち？
「う、うん。」
俺はごくってジュースもどきを飲んだ。
「二年生でも、頑張ってる子は頑張ってるのね。」
何をって突っ込みは無しだ。
「う、うん。」
「私の彼もああいう人だといいなぁ。」
「ブッ！！」
俺はそれを口の中いっぱいに貯めた。
いや、だって、出す訳にいかんし・・・・
そこを
「ぐふっ！」
蹴りやがった！この女、俺の足、蹴った！！しかも顔、怒ってるよ！
「保健委員長、空気読めないし。」
・・・・・。そりゃ無いだろ。
むせ込む俺に、彼女、ピンクのレース付きタオルハンカチ差し出して。
「頼りないんだから。」
って、あんた。
「それじゃ私、困る。」

ええええええええ・・・・・！！！！

「本当に、もう。分かってないんだから。」
ってそれってさぁ。
彼女、鼻から緑のゲル化ソーダ垂らす馬鹿丸出しの俺の耳元に唇寄せて
「私たちも、あんなカップルになりたいんだから。」

背伸びしながらそう囁いた。

これって、もしかして、ハッピーエンド！？

・・・・俺、期待して、いい？

いや、何をって、そりゃ。・・・・ハッピーエンド。

保健室ででくわして　　やっと　おしまい

つづきは無いよ！

１０　ハッピーエンドにでくわして（後書き）

え～、あ～、う～。
楽しんで、頂けましたでしょうか。
書き始めた責任感から、ここまでいっちゃいました。
でも、懲りずにまた書きます、Ｒ１５！！　また遊びにいらしてね♪
みなさまにとって、この春がよりハッピーなものであります様に。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n8744d/

保健室ででくわして

2010年10月10日06時17分発行